

**令和4年度学校給食が終了、一年間、ご協力ありがとうございました！**

令和4年度の学校給食も、コロナ禍の中で、無事終了しました。各校、給食センターの栄養教諭、学校栄養士、給食支援員・調理員のみなさん、関係者のみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。今年度の学校給食だよりは、新聞やニュース等でたくさん取り上げていただいたこともあり、90号の発行（トータルで143号）となりました。今後とも、幅広く、学校給食に関する記事や内容をお伝えしてまいりたいと思います。

さて、令和5年度は、パンやご飯、牛乳などの基本物資をはじめ、給食用一般物資の値上げが軒並み予想され、とても厳しい状況にあります。一昨年から続いている新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済に大きな影響を与え、急激な物価上昇を招いており、それに伴い、学校給食用食材等の原材料価格も高騰が続き、電気料金等の光熱費の値上げ、ガソリン代等の輸送費の値上げに加え、本県の最低賃金も引き上げられるなど、コストアップの要因が生じており、給食用物資も値上げせざるを得ない大変厳しい状況になっております。一方では、各方面から値上げの要望が強まる中、来年度から各市町村の給食費の値段が上がるという情報は少なく、どの市町村も給食費の値段は据え置かれるのが現状のようです。本会としては、未来を担う大切な子どもたちの健全な成長のために、安全・安心で、できるだけ安価な給食用物資の提供を安定して行い、信頼され、求められ、愛される学校給食会を目指してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

**社説 学校の脱マスク「時間かけ慎重な対応を」**

小中高における新型コロナウイルス対策のマスクについて文部科学省は、4月から基本的に着けなくてもよいとする新指針を全国の教育委員会に通知した。丸3年にわたりマスクを着用してきた児童生徒にとって「脱マスク」をすぐに受け入れることは容易でないだろう。子どもたちの心情に十分配慮したきめ細かな対応を教育現場に期待したい。2020年初めから国内で幾度も繰り返されてきた新型コロナ流行の波は、直近の「第8波」が1月初めにピークを記録して以降、落ち着きを見せている。政府の新型コロナ対策本部はマスク着用に関する新たな指針を公表。今月13日から着用の判断を屋内、屋外問わず個人に委ねるといった大きな転換に踏み切った。

これを受け、文科省は4月の新学期以降のマスク着用に関する指針を全国に通知した。学校教育活動に当たりマスク着用を求めないと明記。県教育庁も同様の通知を県立高校や市町村教委に送った。脱マスクの方針が行き渡った格好だが、対応には慎重さが求められる。今月初めに行われた県内公立高校の卒業式では各校が対応を判断。入退場や卒業証書授与の際に外すことを許可するなどの対応を取ったが、マスクを着けたまま臨む生徒もいた。着用を自主判断としたある高校では卒業生全員がマスク姿で式に参加した。「マスク生活が当たり前になり、着けている方が安心するのだろう」という学校関係者の言葉はうなずける。

就職や転職に関する研究機関を運営する「ライボ」（東京）は2月、社会人男女を対象に新指針転換後のマスク着用について全国インターネット調査（有効回答561人）を実施。「状況に応じて」を含む94.5%がマスクを着用すると回答した。着用する人に理由（複数回答）を尋ねると「コロナ対策」「習慣化している」の順に多く、ともに5割を超えた。マスクが定着している状況がうかがえる。

学校で多くの時間を過ごす子どもたちにとって、3年続けてきたマスク姿は既に友だちや先生に見せている自分の外見そのものといっている。感染対策だけではなく、マスクを外すことにさまざまな心理的重圧を感じるのも当然だろう。こうした状況を踏まえ、教育現場は、マスクを外すにせよ着け続けるにせよ、個人の意思が尊重される雰囲気づくりに努めてほしい。本人や家族に基礎疾患があるなど引き続き着用が必要な場合もある。

マスク着用の有無が偏見やいじめ、差別につながるようなことがあってはならない。児童生徒が対面でも向き合ったり大きな声で会話したりする活動では十分な換気に努めるなど感染対策への目配りも必要だ。学校がコロナ以前の状態に戻るまでには、相応の時間をかけた緩やかな変化が求められる。

（令和5年3月22日（水）秋田魁新聞「社説」より抜粋）